

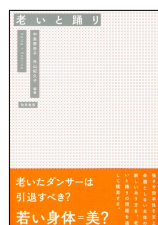


老いのなかにむしろ 荷風は哀愁の情味を見た。

荷風評論に他の追随を許さぬ第一人者が、これまで注目されることの少なかった『溼東綺譚』以降の作品や生活を中心に、老いを生きる荷風の孤愁ともいべき姿を、絶妙な視点と腕さばきで描く力作。人の世を早いころから「老い」の目で見る荷風文学の真骨頂に迫る。

老いの荷風 川本三郎：著 白水社

四六判上製 238頁 2017年刊 ISBN: 9784560095560 2,640円



誰もが避けられない「老い」を 成熟とみなす新たな身体論へ。

「年齢を重ねたダンサーを起用したピナ・バウシュ、100歳をこえても踊りつづけた大野一雄、そして老いを成熟とみなし、老いた身体だからこそ可能な芸があると考えられてきた能や日本舞踊など、老いと踊りの関係性の分析から現代の新しい身体論を示す。

老いと踊り 中島那奈子、外山紀久子：編著 勁草書房

A 5 判上製 400頁 2019年刊 ISBN: 9784326800605 5,280円



「主人公は新しい92歳の アリスだ」マンディアルグ

92歳のマリアンは不思議な耳ラッパを手に老人ホームへ。そこには個性豊かな仲間と奇想天外な冒険が待っていた。画家としても著名なシュルレアリストが贈る幻想譚。「70歳以下の人間と7歳以上の人間を信用してはだめよ。猫でもないかぎりね…」

耳ラッパ——幻の聖杯物語

レオノーラ・キャリントン：著 野中雅代：訳 工作舎

四六判上製 236頁 2003年刊 ISBN: 9784875023739 2,200円

* 価格は10%税込です

..... 出版社クイズ

なんとこの名前の出版社かわかりますか？

①福岡県八女市出身で税務署勤務だった創業者が日本で「税の民主化」を実現する為に、1945年の10月（なんと終戦の年！）にスタートする。大ロングセラーは『体系法人税法』で現在33訂版となる。また、創業翌年に発行された月刊誌はこの9月で1086号を迎える。

②『エンロン崩壊の真実』は現社長の企画。粉飾決算の恐怖を初めて日本に紹介し、映画化もされた作品。後に日本で次々と明るみになった企業の粉飾決算への警鐘を鳴らすきっかけにもなった。

③現社長は学生時代に全国バンドコンテストで、ベストベーシスト賞を受賞したハードロック好きのバンドマン。今でも年一回ほどライブで演奏しているとか。

* クイズの答えは次号(08号)＝梓会加盟出版社を紹介してゆきます

前号のクイズの答え

明治からずっと続く「新小説」の出版社

春陽堂書店

創業者は和田篤太郎、商売を始める以前は西南戦争に従軍していたと言われています。明治の文壇を牽引した文芸誌「新小説」は「黒潮」と名を変えて昭和の初めまで続いていました。大正から昭和にかけては、江戸川乱歩、岡本綺堂、横溝正史、山手樹一郎などの探偵小説や時代小説も刊行し、1927年には「明治大正文学全集」も手がけています。戦後は種田山頭火や金子みすゞなどの詩歌の書籍も刊行。

創業140年をむかえた2018年にはロゴマークも一新し、ウェブマガジン「Web新小説」を創刊するなど新たな試みも行っています。



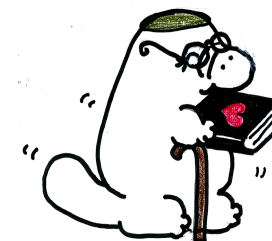
梓会 図書館クラブ 通信

Azusa-kai Library Club



図書館は本の森。出版梓会は事典から絵本までユニークな本を丁寧に作る出版社の集まりです。この葉では毎回テーマを決めて、読書の愉しみを、ひとりの時間を極上してくれるお宝本を、こっそりお教えします

年を取らない人はいません。
というわけで、
今回のテーマは、
「こんな老人に
わたしはなりたい」です。



死ぬまでどう生きたいか。
先人に学んでもよし、専門家
に学んでもよし、宗教家
の言葉に耳を傾けてもよし。

2021年07号

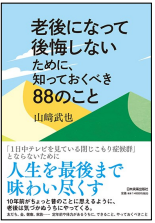
出版梓会 <http://www.azusakai.or.jp/>



たのしく のんびり いきたい 南伸坊のゆるやか健康エッセイ

NHK「きょうの健康」に連載された4年間のエッセイを書籍化。「胸が痛んだらどうするか」「耳が遠くなるということ」「メ切的効用」など、健康でいるためのマジメな秘策から読者を励ます心意気まで、健康をテーマに日々の暮らしをユーモアたっぷりに綴る。

生きてく工夫 南伸坊:著 春陽堂書店
四六判並製 235頁 2019年刊 ISBN:9784394903581 1,760円



老後も輝き続けるために 今やっておくべきこと

10年前がちょっと昔のことと感ずるようになる。老後は気づかぬうちにやってきます。「もっと〇〇しておけばよかった…」と後悔しないよう、人生を最後まで味わい尽くすために知っておくべき老後にまつわる「誤解」と「リアル」そして「やっておくべきこと」。

老後になって後悔しないために、知っておくべき88のこと
山崎武也:著 日本実業出版社
四六判並製 208頁 2019年刊 ISBN:9784534057174 1,540円



より良い町や、人をつくる！ 金次郎の報徳思想を考える。

通称は金次郎。江戸時代末期、小田原藩領の百姓の子として生まれる。自家の再興後、実践家として武家や下野国(栃木県)の農村復興に尽力し、やがて幕吏に登用される。自己の積み上げた知識・経験をいかに社会へ還元していくのか。その向き合い方を、二宮の人生から考える。

二宮尊徳 大藤修:著 日本歴史学会:編集 吉川弘文館
四六判並製 352頁 2015年刊 ISBN:9784642052740 2,640円



今年の夏はいろいろあったな～ もののあわれを感じる今宵は中秋の名月。月のウサギがカモノハシに見えるよ～



「せんだいメディアテーク」等 建築家が建築と半生を振り返る

身体の中からは、腹の底から生み出した建築には、時代を経ても変わらない力がある。国立競技場のコンペティション敗北を原動力に、厄災の時代に建築が果たす役割を問い続ける伊藤豊雄。人生の先輩が若い人に語りおろす自伝「のこす言葉」シリーズの一冊。

伊藤豊雄——美しい建築に人は集まる 伊藤豊雄:著 平凡社
B 6 変型上製 104頁 2020年刊 ISBN:9784582741247 1,760円



女とマスコミがしっかりして いれば戦争は防げる！

関東大震災にあい、この国の激動の100年を経験し、100歳で逝った日本画家の決定版評伝。師を持たず、一所不住の自律した生き方は、小さな生き物やヒマラヤのブルーポピーの絵画を通してばかりでなく、没後の今もひろい世代からの共感を呼んでいる。

虹の橋を渡りたい——画家・堀文子九十七歳の挑戦
中田整一:作 幻戯書房
四六判上製 288頁 2016年刊 ISBN:9784864880879 2,200円



100歳でフルマラソンを完走 元氣と勇氣がもらえる 伝記絵本

足が弱く歩けなかった幼少期をたゆまぬ努力で乗り越えたファウジャ。80歳を過ぎて走る楽しさを知り、88歳でロンドンマラソン完走後、彼が立てた新たな目標とは？そのひたむきな挑戦と、100歳で史上初の偉業を成し遂げた驚きの生涯をのびやかな絵と文で綴ります。

100歳ランナーの物語——夢をあきらめなかったファウジャ
S・J・シング:文 B・カウル:絵 金哲彦:監修 おおつかのりこ:訳
西村書店 B 4 変型上製 44頁
2020年刊 ISBN:9784867060162 1,760円



最も小さな経営単位 おひとりさまの戦略経営

単なるハウツー書ではなく、会計学や経営学の理論を基礎とした、おひとりさまライフプランの教科書。更に、図や表を用いて視覚で理解を促進し、表形式で意思決定や業績評価が出来るよう例題を掲載。ホームページからテンプレートもダウンロード出来ます。

おひとりさまのお金の話 吉田博文:編著 税務経理協会
A 5 判並製 264頁 2021年刊 ISBN:9784419067540 2,640円



この人の人生は 一途なパンの味がする

質実剛健なパン、小麦本来の味がするくほんものゝパンをめざし、98歳の今日も、自前のオープンと自ら厳選した国産小麦でパンを究める。心の中の幸福のパン種をふくらまし、いつしかそれを人生の魔法としてしまった人の物語を、パン作りの知恵とともに。

98歳、石窯じーじのいのちのパン 竹下晃朗:著 筑摩書房
四六判並製 184頁 2019年刊 ISBN:9784480879080 1,760円



無名の人生こそ豊かなり—— 人は旅の終わりに何を語るのか

東京多磨霊園の散策で出会った無名の人たちの墓碑が、閉塞感の漂うこの時代に、生と死への問いかけや人と人との絆や温もり、そして生きることへの励ましのメッセージを与えてくれる。遺された珠玉の言葉から人生の歩き方を考える、読み応えあるエッセーです。

墓碑をよむ——“無名の人生”が映す、豊かなメッセージ
立元幸治:著 福村出版
四六判並製 260頁 2019年刊 ISBN:9784571300394 1,980円

地球が回ればベルリンのあの子も同じ月に何を見るのかな…